

事業所名：地域密着型小規模特別養護老人ホーム なつぼ

運営推進会議開催報告書

開催日時

令和 5 年 7 月 15 日 (土) 10:00~12:00

参加者

入居者： 0名、家族： 1 名、地域の代表者： 2名、包括支援センター： 1名

事業所： 4 名

議題 内容

参加者自己紹介、施設長挨拶

コロナ禍により中止していた会議を再開できた。情報発信を行い、開けた施設にしていきたい。

1、地域密着型特別養護老人なつぼ 運営状況。

①コロナ禍における面会状況について。

令和2年1月、コロナ感染症が国内感染発見されてから、2月面会等を禁止してきた。10月、窓越し面会の再開。令和3年ラインアプリのビデオ通話を導入も、画面が小さく、有効な会話はできず。令和3年8月より、広いホールにて飛散防止パネルを用いて面会実施。飛散防止パネルは声が聞こえず、皆さん近くに寄ってしまっていた。令和4年12月から翌年1月まで第8波の影響で面会中止。令和5年2月から面会を再開。看取り時はその都度の状況で面会はフリーにして対応してきた。

②ワクチン接種状況について報告

2023年6月時点で6回目接種が終了。利用者様、職員ともに重篤な副反応なく生活を継続されている。

③利用者、職員等の罹患状況を報告

2、各参加者意見交換

- ・施設での面会制限よりケアの密室化の問題について注意して対応してきた。虐待を疑わせる報道もあり、外部の目が施設内に入らない状況はケアに注意が必要になっていると思う。
- ・特養を家の延長として取り組んできたが、ご本人にとっての家族の重要性を改めて感じている。
- ・地域の様子からは緊急事態宣言から相談が減った。緊急事態宣言明けの相談では足腰が弱った、認知症が進行したなどのケースが多くなったように思う。
- ・ワクチン接種については1回目はコールセンターとつながらずどう打ってよいかわからない問いが多かった。3回目等はほぼなく、6回目は打つか打たないかの相談が多いように思う。
- ・看取り時は入院のタイミングでも面会ができなくなるとの理由で在宅看取りを選択される方が多かったように思う。

次ページ

議題 内容

続

2、各参加者意見交換

- ・マスクの着用を見ても、している人いない人、同じ人でも場面により着用している人、着用場所で考える人。の違いがあるようだ。又、都内と栃木では着用率も体感で違うようである。
- ・ワクチン接種は仕事場の意向をくんで4回目まで接種した。接種しても何の反応も出ず、反応が出ない人には効果も薄いような情報にも触れたことがあり、効果のほどがわからない。
- ・ワクチン接種は自分というよりは、施設に迷惑をかけられないと考え接種してきた。
- ・利用者では全盲であり窓越し面会といっても声が通らず、施設の方は工夫を重ねていってくれた、お礼を言いたい。
- ・施設では出勤時の体調確認を継続している。体調不良があれば勤務交代している状況。

3、その他

- ・奈坪一区自治会では敬老会を計画していた。コロナ禍によりほとんどの行事が中止になってきたが徐々に再開に向かうと思う。協力して参加を調整したい。
- ・包括支援センターの役割に変更が出ている。エールUという事業により、共生型の窓口となり、これまで高齢者が主だった相談業務が、対象者が広がっている。間口を広げて、相談しやすくし支援できる機関につなぐ役割を担っていく。
- ・線状降水帯、ゲリラ豪雨等の自然災害が頻発してる。特養なつぼは高台の為、水害は心配は少ない様子だがどうか？風雨による倒木があった、土地管理している方に報告相談し進捗している。
- ・施設よりイベントとして、餅つき、涼み会への地域の方等の参加は検討していく。又、地域河内ふれあい祭りに協力参加していきたい。

次回、9月16日10:00からを予定しています。